

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2024 年度・第 1 回

2024 年 7 月 25 日

学校関係者評価委員会

目次

1. 学校関係者評価	1
2. 2024年度 第1回学校関係者評価委員会	1
3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者	1
4. 配布参考資料等	1
5. 報告事項	2
6. 委員からの評価と意見（評価点：5点満点）	2
7. 2024年度の重点項目	4
8. まとめ	4

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役職員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した自己評価結果と取り組みに対する評価をする。

委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切か
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切か
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切か
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切か

2. 2024年度 第1回学校関係者評価委員会

2023年度における各学科の評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

- ・日時：2024年7月25日（木）17:00～18:00
- ・場所：読売理工医療福祉専門学校 301教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【出席委員と学校側関係者】

【学校関係者評価委員】（敬称略・順不同）

- ・渡部 俊一：理工専校友会会長
- ・堀畑 尚子：保護者（欠席）
- ・杉田 明治：地域住民
- ・松浦 正典：団体等
- ・羽場 宏祐：企業等・放送映像学科
- ・鹿毛 信一：企業等・建築系学科
- ・小嶋 守：企業等・電気電子学科
- ・伊藤 大輔：企業等・臨床工学系学科
- ・大竹 信子：団体等・介護福祉学科

【学校側委員（オブザーバ参加含む）】

- ・藤本 昌弘：理事長
- ・中村 宏之：法人本部長
- ・中條 学：事務局長
- ・水落 清治：校長
- ・鈴木 和弘：放送映像学科長
- ・小川 貴之：建築系学科長
- ・栗島 正晴：電気電子学科長
- ・沢田 雄太：臨床工学系学科長
- ・曾我 辰也：介護福祉学科長
- ・増田 孝博：ITエンジニア学科長

4. 配布参考資料等

2023年度 第2回学校関係者評価委員会 報告事項ならびに取組み事項

資料1 2023年度「教育活動その他の学校運営」

資料2 2023年度「学科状況報告」

資料3 2022年度「自己評価報告書」

5. 報告事項

①昨年度の重点項目の報告

- ・除籍退学率 10%以下を目標として学生の指導にあたる。

除籍退学者は 49 名（除籍 8 名・退学 41 名）、除籍退学率は 9.32%（昨年度 11.38%）と目標を達成することができた。退学理由として多いのが、昼間部の学生は進路変更、出席不良で、夜間部の学生は仕事の関連が多くなっている。夜間部の学生は、現在就いている仕事の都合（部署変更、忙しくなった）によるものが多く、学校としての対応は難しいところであった。

2024 年度も、引き続き面談機会を増やす等のこまめな学生指導を組み立て、除籍退学率を減少させたい。

- ・就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3 月末の就職内定率を 95%を超えるようにする。

新型コロナウイルス感染症の影響が一段落し、求人数も増加の傾向になったこともあり、2023 年度の最終就職率は 95.3%に達した。希望者に対しては 100%を達成できるように就職指導にも力を入れたい。

②学校の状況

- ・2024 年度の入学者は 235 名（昨年の 231 名）

③2024 年度の学校行事等スケジュール

- ・5 月 29 日 ナイター招待（東京ドーム）
- ・6 月 9 日 スポーツ大会（東京ドームボウリング場）
- ・11 月 1 日～2 日 学園祭

6. 委員からの評価と意見（評価点：5 点満点）

評価に関して段階（5＝申し分ない・4＝十分である・3＝標準的・2＝努力を要する・1＝不十分である）

①除籍退学率の目標を 10%以下とするの評価（4.00）

- ・精神的なもののストレス・うつ病はコミュニケーションをまめにする。一声かける。
- ・読売奨学会制度の有効利用の促進。
- ・いろいろと学生とのコミュニケーションをとったり、サークルなどを充実させることなどすすめていると思います。
- ・2022 年度から改善され 2023 年度は目標を達成できたことは評価出来る。達成でき理由を明確にし、そこを重点的に今後も活動して頂けたらと思う。
- ・気になる事として 1 年目の退学率が高いため、その原因をつきつめ、1 年目の生徒のフォローをして頂けたらと思う。
- ・電気電子、建築は留学生には専門的用語が多く留学生は授業についていけなくなるのかも。
- ・目標は達成されているため、努力された結果だと思っています。
- ・様々な学生がおり、入学後に「合う・合わない」が出てくる場合もあるため、1 年生の除籍退学は仕方ないのではないかと思います。2 年生の除籍退学者を無くすことに重点的に取り組めると良いのではないかと思います。
- ・2023 年度において達成されており評価します。2024 年度も引き続き同じ目標として妥当であると考えます。

②就職率 95%以上の評価 (4.17)

- ・企業は人材不足です。現在はいくらでも就職先はあると思います。つながりを大事にし、同じ会社に継続的に雇用してもらおうと良いと思う。
- ・インターンシップが学生にとってかなり有効になると同時に、企業との関係も密になることは必要と思います。
- ・2022年度から改善され2023年度は目標を達成できたことは評価出来る。達成でき理由を明確にし、そこを重点的に今後も活動して頂けたらと思う。
- ・留学生の関係か、学科によって少し就職率のバラつきがあるため、そこを改善出来たらいいと思う。
- ・目標は達成されているため、努力された結果だと思っています。
- ・就職し活躍されている卒業生の協力を得ながら、就職後の魅力を知ってもらえるような機会を積極的に作っていくことができると良いと思います。
- ・2023年度において達成されており評価します。
- ・実際の就職先への定着率はいかがなのでしょう。定着率の高さも学生側、企業側の一つの判断材料になるのではないかと考えます。

③教育活動その他の学校運営の評価 (4.00)

- ・建築学科の留学生の多さにビックリしました。せめて日本人と留学生の比率が逆になってほしいです。
- ・前年度と同様に学生さんとのコミュニケーションを増やせることと思います。
- ・教育方針である「人間力」と「専門力」を軸に、様々な活動が出来ていると思う。
- ・学校行事や地域支援活動を通じ、社会に出てから役立つ人間力を養って頂けたらと思う。
- ・また留学生を始めとした、多種多様な生徒が増えていることから、生徒へのカウンセリングを強化して頂けたらと思う。
- ・様々な背景を抱えている学生に対し、配慮しながら対応されていると思います。
- ・インターンシップを一部の学科では行っていないようです。企業側にも負担を強いられるものでありますが、学生にとっては、今後の就職活動を進める上でも、実際に体験することにより、業種や職種、仕事の具体的な内容や実際の雰囲気などを知ることができ、就職後の不安なども払拭されると考えます。ぜひ全学科でのインターンシップを実現させてください。

④学校運営に関する全体の評価 (4.00)

- ・今いっそう学生が増えるように関東一円の高校への訪問を希望します。
- ・学校の立地がすばらしく良いので、もう少し立地を生かし積極的に攻めてみてはどうでしょうか。
- ・18歳人口減少し、大学進学率が上昇する中で、専門学校の特性を全面に出して行かなければ生徒の確保は厳しくなると考える。専門学校を選ぶ生徒の層を考えながら、高校の学校訪問を行い、大学とのコスト面での優位性及び、奨学金の充実具合、そのような環境でも高就職率と資格習得率といった面を前面にアピールする事が重要であるとする。
- ・少子化が進む中で学生の確保が今後ますます厳しくなるかと思っています。
- ・入学時や広報活動時に卒業後のビジョンが見えるような働きかけを行い、専門的に学ぶことの意欲や魅力につながると良いのではないかと考えます。
- ・課題、改善方策、昨年度の目標も達成されており、意義はありません。

- ・貴校の講師派遣を通じて感じたことを書かせていただきます。貴校の留学生受入については、日本語能力試験N2以上で、該当しない留学生は、学校独自の日本語筆記試験の合格となっています。留学生の方は概ね日本語を理解しており、留学生受入についての出願要件が履行されている印象であります。しかしながら、若干名理解度の低い学生も見受けられました。こうした学生に対して、どう分かりやすく説明するか、少し考えさせられました。他の学生との学習進度の差が大きく、結果として、なんの対応もすることなく講義は終了してしまいました。専門学校としては、目標とする資格合格率低下などにも繋がることですので、体系的なフォロー、具体的対応が課題であると考えます。

7. 2024年度の重点項目

退学者を減らすためにも、欠席が目立ち始めた学生へのこまめな指導を行い、学生の情報を共有し対応に当たる。就職率の更なる向上を目指し具体的な目標値を設定し、昨年度同様次の2点に重点を置く。

- ①昨年度に引き続き退学者の減少に努め、除籍退学率の目標を10%以下とする。
- ②就職希望者の全員が就職できるように、就職指導の強化を行う。3月末の就職内定率を95%を超えるようにする。

8. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上